



開拓精神

柏葉

学ぶ力

健全な心身

豊かな心

広い視点

<https://www16.sapporo-c.ed.jp/kotoni-j/>

札幌市立琴似中学校 学校だより

No.14 令和8年3月13日

第79回卒業証書授与式



「第79回卒業証書授与式 学校長式辞」

厳しい冬の終わりを感じさせるような、柔らかな春の日差しが、皆さんの門出を祝うかのように降り注ぐ季節となりました。本日、琴似中学校を巣立つ263名の3年生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。また、PTA会長の菅原様、山の手小学校の谷校長先生、山の手南小学校の古川校長先生、琴似小学校の永洞校長先生をはじめ、評議員の皆様、各関係機関、地域町内会の皆様、PTA役員の皆様方、多くのご来賓や保護者の皆様のご臨席を賜り、第79回卒業証書授与式を盛大に挙行できますことに、心より感謝申し上げます。

改めまして、3年生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。今、一人ひとりに卒業証書を手渡しましたが、皆さんの表情には晴れやかさと共に、新たな出発への決意が感じられ、私も嬉しくなりました。今、皆さんの胸中には、3年前の入学式から今日までの、数えきれない思い出が駆け巡っていることでしょう。皆さんの学年は、一言で言えば「熱」のある学年でした。何事にも全力で、行事のたびに学校中を明るいエネルギーで満たしてくれました。

特に私の心に深く刻まれている光景が、三つあります。

まず一つ目は、修学旅行の「学年レク」で見せてくれた、あの圧倒的な一体感です。クラスの垣根を越え、学年全員が同じ空間で笑い、声を枯らし、心から楽しんでいたあの夜。企画に登場した先生方と共に、全員が一つになって盛り上がった光景を忘れることはできません。生徒と教師という立場を越えて、同じ時間を全力で楽しみ、笑い合ったあの瞬間。そこには、三年間で築き上げてきた、確かな信頼と絆がありました。

二つ目は、体育大会で見せてくれた、あの力強い「円陣」です。クラスの仲間と肩を組み、輪の内側に向かって声を張り上げたあの時。一人ひとりの強い意志が一つに束ねられた時の爆発的なエネルギーは、まさに「団結」の姿そのものでした。

そして三つ目は、合唱交流会で響かせた、あの美しい「歌声」です。異なる音程、異なる声質を持つ皆さんが、隣の仲間の声を聴き、自分の声を重ねる。あの日、カナモトホールを包み込んだ響きは、学級全員の心が一つになった証であり、聴く者すべての人の「心」を揺さぶるものでした。

こうした行事を通じて、皆さんは「正解のない問い」に対して、仲間と共に納得のいく形を作り上げる経験を積み重ねてきました。これから先、皆さんは人生の節目で、何度も大きな選択を迫られます。どの道に進むべきか、どちらが正しいのかと、立ち止まり、迷うこともあるでしょう。

そんな時、思い出してください。大切なのは「どちらが正しいか」を選ぶことではなく、「選んだ後、どう生きるか」です。世の中に、最初から約束された「正しい答え」などありません。皆さんがあの学年レクや円陣、そして合唱で証明したように、自分で決めた道を、その後の努力と工夫によって「これで良かったんだ」と思える正解に変えていってください。皆さんには、その熱意と、人を巻き込み、共に響き合える力が備わっています。

最後に、皆さんに私たち教職員の思いを伝えます。私たち教職員にとって、皆さん一人ひとりの成長を見守ることができたことは、大きな喜びでした。時には厳しく、時には優しく、皆さんと一緒に悩み、考え、励まし合いながら過ごしてきた時間は、私たちにとっても貴重なものでした。私たちはこれからも皆さんの味方です。これから皆さんがどのような道を歩もうとも、たとえどんなに遠い場所にいたとしても、私たち教職員は、これからもずっと、皆さんのことを応援し続けます。皆さんの底力を、私たちは誰よりも信じています。

終わりになりますが、保護者の皆様、お子様のご卒業、誠におめでとうございます。多感な時期であり、迷いや悩みの多い3年間であったことと思いますが、子どもたちは多くの喜びや辛さを経験し、乗り越え、このように逞しく成長しました。お子様がまっすぐに歩み、成長してこられたのは、ひとえに皆様のご支援のおかげです。教職員を代表して、お礼を申し上げます。本当にありがとうございました。

本日ご臨席を賜りました皆様、今後とも本校の教育に一層のご理解とご支援をお願い申し上げます。式辞といたします。

令和8年3月13日

札幌市立琴似中学校長 伊藤 彰英

「卒業生 答辞」

厳しい冬を越え、やわらかな春の気配が感じられるこの季節、私たち卒業生もまた、3年間過ごしたこの学び舎を離れ、それぞれの新たな道へと歩み始めようとしています。

本日はご来賓の皆様をはじめ、教職員の皆様、そして保護者の皆様のご臨席を賜り、このような厳粛で心温まる卒業証書授与式を挙げていただきましたことに、卒業生一同、心より御礼申し上げます。

三年前の四月、新たな学校生活への期待や不安を胸に抱きながら迎えた入学式、周りには知っている仲間の姿もあれば、まだ名前も知らない新しい仲間の姿もあり、少しの緊張の中で始まった中学校生活でした。しかし今、この場から見渡すと、ここに並んでいるのは共に三年間を過ごしてきた、よく知るかけがえのない仲間たちの顔ばかりです。私は大切な仲間たちと今日という日を迎えることができ、本当に嬉しく思います。

初めて後輩ができた日、自分が先輩になるという実感がなかなか湧かず、ずっとそわそわしていたことを今でも覚えています。初めて「先輩」と呼んでくれたときは本当に嬉しく、「先輩としてしっかりしよう」と思えた瞬間でした。在校生の皆さん、私たちを先輩と呼んでくれて、私たちの後輩でいてくれて本当にありがとうございました。これから大変なことはたくさんあると思うけれど、一番大切なのは笑顔でいることです。何事も全力で楽しんでください。心から応援しています。

いつも近くで私たちの成長を見守ってくださった先生方、悩み事やつらいことがあったときは、そばで温かく寄り添っていただきました。先生方がいたからこそ、私たちは迷いながらも、この三年間、一步一步前に進み続けることができました。本当にありがとうございました。

私たちの一番の味方でいてくれたお父さん、お母さん。反抗したり、わがママを言ったりして、たくさん迷惑をかけてしまったと思います。この時期、気持ちの面でなかなか上手いかず素直になれなくて、感謝の気持ちを直接伝えることができませんでした。お父さん、お母さん、いつも私を支えてくれて、見守ってくれて、そばにいてくれて本当にありがとう。まだまだ未熟な私だけど、これからも見守ってください。大好きです。

三年間を共に過ごしてくれたみんな。この三年間、琴似中学校で過ごしてきた中で、嬉しかったこと、楽しかったこと、つらかったこと、悲しかったこと、たくさんありました。でも、その情景を思い浮かべると、いつも隣にいてくれたのはみんなでした。仲間がいたからこそ、この三年間が私の中で宝物のように大切なものになりました。こんなに素敵なお仲間たちと出会えて、私は本当に幸せでした。ありがとう。

これから私たちはそれぞれの進路に向かって一步一步自分の足で歩んでいきます。時には大きな壁にぶつかるかもしれない。立ち止まって後ろを振り返ってみたくなることもあるかもしれない。しかし、仲間と過ごした思い出は、私たちを後ろへ引き戻すものではありません。私たちの背中を力強く押してくれるものです。だからこそ私たちは今日、その一歩を踏み出します。ゴールはまだまだ見えないけれど仲間と共に、次の道へ進んでいきます。

最後になりますが、琴似中学校の益々のご発展を心より祈念して、答辞とさせていただきます。



令和8年3月13日

卒業生代表